草　創　期　篇

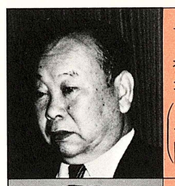
昔の審判講習会を語る

近江神宮審判員講習会誌上座談会

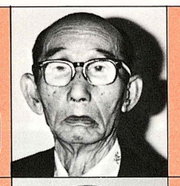
※この「誌上座談会」は、昭和37年７月11日（会報127号）に掲載された座談会を中心に昭和33年６月18日（会報87号）、昭和47年６月14日（会報24号）を参考として誌上にて構成したものです。

近江神宮審判員講習会紙上座談会出席者紹介

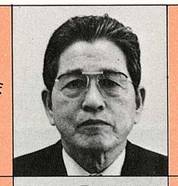
(昭和37年当時・敬称略・順不動)



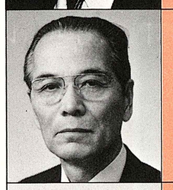
平野　晃
社団法人
埼玉県モーターボート競走会
(社団法人
全国モーターボート競走会
連合会)



杉江　達太郎
社団法人
愛知県モーターボート競走会

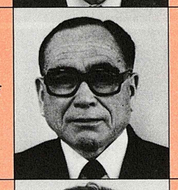


長田　茂雄
社団法人
愛知県モーターボート競走会

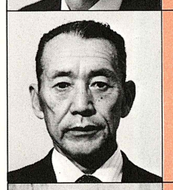


石田　達曠
社団法人
愛知県モーターボート競走会

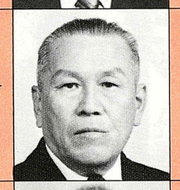
加賀井　直道
社団法人
愛知県モーターボート競走会



西島　好夫
社団法人
三重県モーターボート競走会

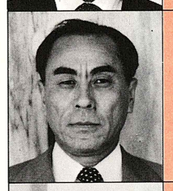


内山　重雄
社団法人
三重県モーターボート競走会

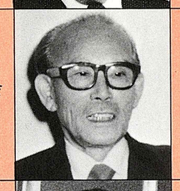


山下　勲
社団法人
福井県モーターボート競走会

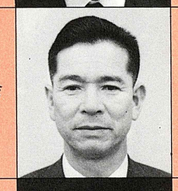
石川　善策
社団法人
滋賀県モーターボート競走会



大西　茂
社団法人
滋賀県モーターボート競走会

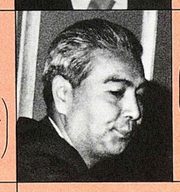


松岡　賛城
社団法人
大阪府モーターボート競走会

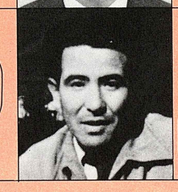


紙谷　万次郎
社団法人
兵庫県モーターボート競走会

原田　綱嘉
モーターボート連盟
(社団法人
全国モーターボート競走会
連合会)

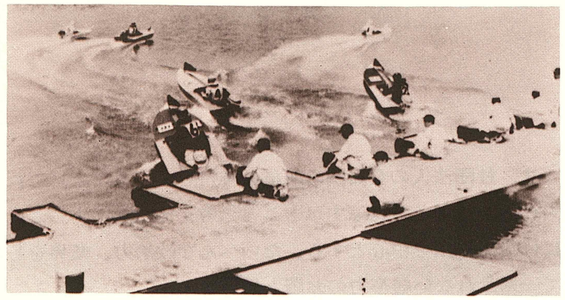


青木　芳香
(社団法人
全国モーターボート競走会
連合会)



菊地　武比古
ヤマト発動機株式会社
(社団法人
全国モーターボート競走会
連合会)

中北　清
社団法人
全国モーターボート競走会
連合会



講習会は近江神宮で

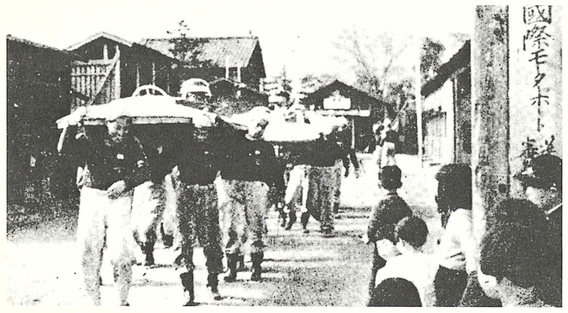
青木局長挨拶　本日は御多用中御参集下さいまして有難うございました。先日、大阪におきまして協議会の席上、西島、松岡両氏よりモーターボート競走も十周年を迎えたのだが、十年前を偲んでひとつ第１回の審判員講習生が集まって回顧座談会を開いてみてはと云うお話がありましたので企画を進めて参りましたが、開催日程等を勘案し本日漸く実現した訳であります。早速司会者を決めて戴いて進行して行きたいと思いますが。

西島　教官にやって戴きましょう。

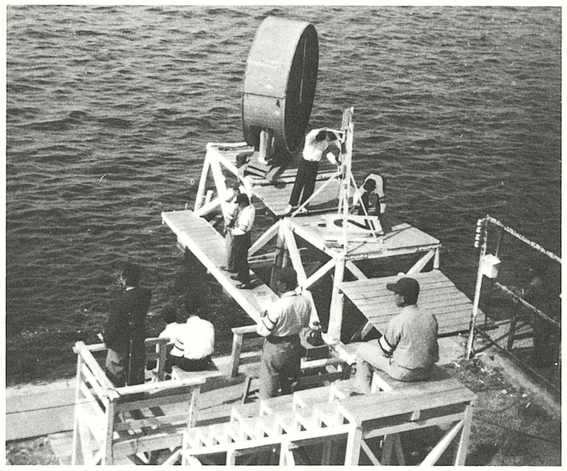
松岡　青木局長にお願いしましょう。

青木　それでは本筋に入る前に競走運営の中心となる審判員を養成するための審判員講習会の場所を〝なぜ近江神宮にしたか〟その辺のところから当時連合会の総務部長として場所の選定をされた平野さんからお伺いしたいと思います。

平野　別に確たる理由というほどのことはなかったのですが、当地滋賀県競走会の佐藤さんがご承知の通り国際モーターボート選手審判員養成所を開設していらっしゃり、器材、施設をお借りしたり、講習を実施するに当って便利だということ、当時は大村以外に完成した競走場がなく他に適当な場所もなかったことから当所を選んだという記憶があります。ここで競走の仕組みとあり方について共々勉強したわけですが、経験者としては原田君以外にはなく、私共が法制定に至るまでの経緯やらでき上がった競走法、政省令についてあるいは大村のテストレースの状況等をお話して、いろいろとお教えしたわけです。

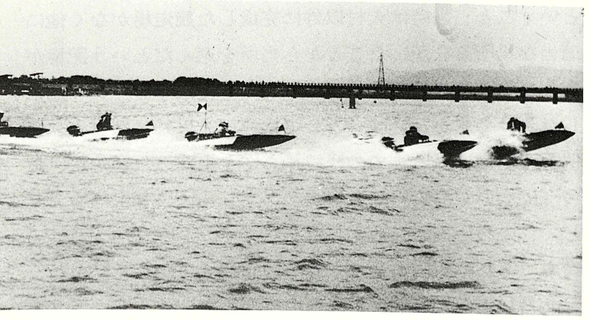


青木　あれは大村のテストレースを終えてからでしたね。私共としては大村開催の経験を生かしていこうということと、津の初開催を旬日に控えて万全を期そうというのが一番の目的でした。



菊地　大村の初開催には散々な目にあい、自信なんてなかったので大村で得た尊い経験を基にして津の初開催に万全を期してゆこうとしたのです。

平野　この近江神宮で思い出すのはなんといっても亡き板倉さんです。蔭の功労者といいますか、たいへんご苦労なさった。当時板倉さんはご健康が勝れなかったけれども、お酒が非常に好きで欠かせなかった。板倉さんにとってはまさに百薬の長でありました。そこで、講習生のみなさん



はもちろん、講師の方々にも内緒で差上げたのですが、猪口から音を立てないよう気を使って楽しそうに飲んでおられたお顔が今でも忘れられません。

青木　板倉さんももちろんですが、ご苦労はみなさんそれぞれにありましたね。

平野　各地共、初開催までには物心両面で相当苦労をされていますね。

松岡　途中から業界に入った人は、連合会あるいは競走会の設立当時の歴史を知らない。そのような関係者がかなりおります。モーターボートは他の競技と違い、連合会ができて競走会が創立され施行者があとから加わってきた。その経緯を知らずに勝手なことをいう人がいるので困る。

平野　時が移り人が変ると、歴史を回顧する人も少なくなります。今から考えると何もかも感慨無量です。

青木　しかしながらみなさまのご苦労、ひいてはこの近江神宮における講習会精神というのは今日の養成および再訓練でも活かされていますし、今後も永久に残ることと思いますね。

平野　顧みますとモーターボートにはいろいろなことがありました。第１に法案成立…ご承知の通り藤さんの武勇伝もあって、参議院で否決された法案を衆議院に戻し、会期の３日延長の間に通過させたこと。第２には時限立法が恒久立法になったこと、第３にはわが業界のみが創立当時のまま、社団法人の会員制の組織を維持していること。これらの３点はまさに特筆すべきことと考えております。これには笹川先生を中心とする、たいへんな政治力、業界をして一糸乱れない統卒力のお蔭と思います。

業界当初の頃、近江神宮に参集されたみなさんがその後全国に散って、いまなおこうしてお元気に健斗されておられますことは誠に祝福に絶えないことと思っております。

畳の上での模擬レース

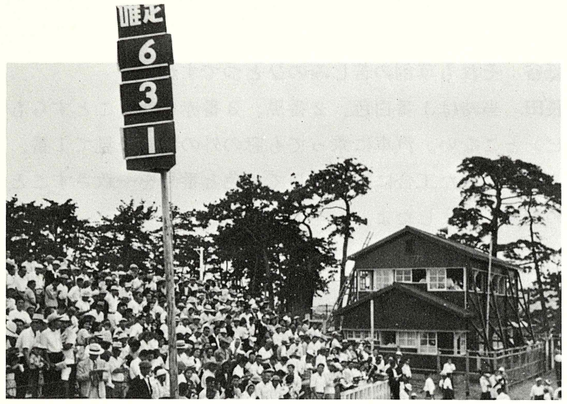
青木　ところで当時、品行方正，学力優秀ということで、松岡さんを級長に西島さんを副級長に推薦しましたね。

西島　品行方正だけは認めます。

青木　実はこの講習会をやります前に、東京へ松岡さんが来られたのですがその折、消防服に胸一杯の勲章をさげて連合会へ来られ開口一番、審判員試験は一体誰がやるんだと大声で話を始めた――ははあ、あれが松岡かと、その節まことによい印象を得ていましたのと、この第１回の講習会にその松岡さんが出席なさるというので、板倉さんに出てきてもらいました。さて講習会の開所式も済んで１時間目の写真判定についての説明をフォトフィニーの渡辺さんが始めようとすると、「オイ、われわれは写真屋のＰＲをわざわざ聞きに来たのではない」と、松岡さん独得の毒舌が入った。渡辺さんはもちろん、私共も講習生もあっけにとられたことがありました。

松岡　いや、今だから話しましょう。実は津の開催について西島さんから、松阪競輪の判定写真をやっているライオン写真館を使いたいと聞いていた。しかもライオン写真館の息子がわざわざ講習会へ来ていた。それだのにフォトフィニーが来て説明をやり出したので、西島氏に対する仁義もあって、それでごねたわけです。

青木　これ以上ごねられたらと思って、級長を松岡さんに

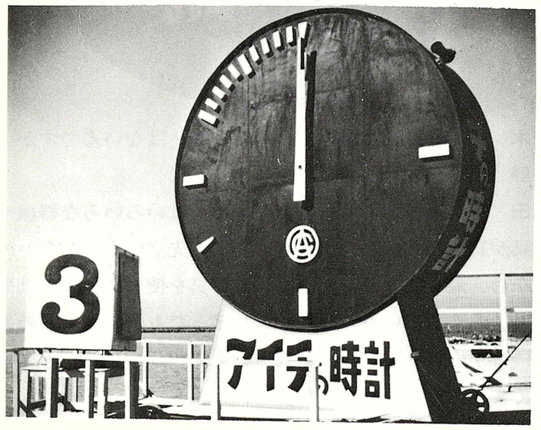


したのではなかったかと記憶しておりますが、どうでしょうか。

菊地　いや東京を出る前に、級長は松岡さんと決まっていたと思うんですが。

平野　ここで第１回の講習会をやったことは、モーターボートの史実に大きく残りましたね。

松岡　競走場はどこにも無いし、モーターボートを見たこともない者がここで汗を流し知恵を絞ったのが今日の実りの種となった。これは教官各位のご苦労の賜で、当時に思いを致し懺悔しております。



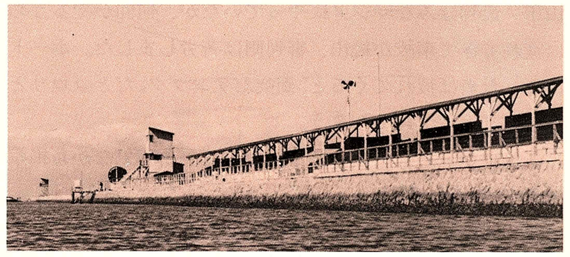
青木　当時の課目や、それから失敗談を原田さんからひとつお話いただけませんか。

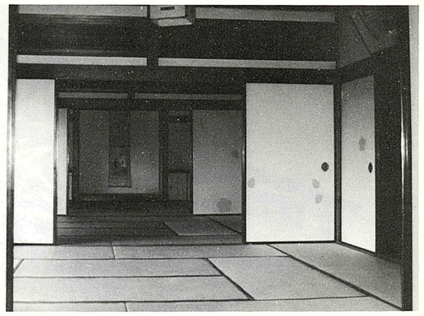
原田　もう10年ですからね、記憶がありませんねえ。しかしみなさん純心でした。各地の競走会の幹部の方々ばかりでしたが、一生懸命でしたね。板倉さんが蚊取線香を焚いてくださったりして、朝早くから夜遅くまで講議の連続でしたね。

青木　加賀井さん、課目はどんなものでした？

加賀井　初めに法制定当時の経過、連合会競走会の性格、その他政省令、レースの運営など盛りだくさんでしたが、何しろモーターボート競走そのものを見たこともなかったし、模擬レースをやるにもボート・モーターが無いため、艇旗の８色の紙旗を鉢巻にさして、座敷の上でこんなものだとお互いが中腰で歩き回ったのですからね。

長田　神宮の社務所の襖を取り払って、三間ぶち抜きの広間にボール紙の大時計、ボール紙のタイムデスクをつくり





ボート代りは三重の若い諸君で各自三角の色別の小旗をもって部屋の中をグルグル歩き回る。ボートはこう走る、審判はこういい風に配置についてこう信号する。

松岡　家庭劇だね。スタートはこう、決勝はこう、失格になればこうするとね。

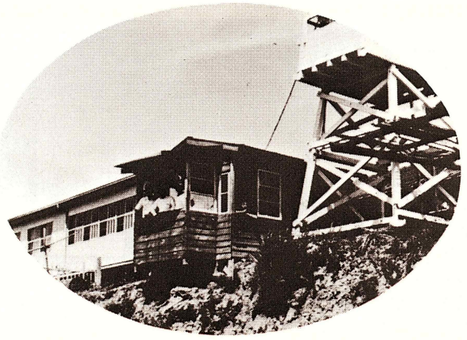
青木　あの時は雨が降ったので外でレースの勉強ができない。レースってどんなものかみな見たこともないのですからね、どうしようかと考え、その朝あわてて畳の上での模擬レースを考えて作ったのです。

長田　「ボートはこんな風に待機水面を回ってコースに入ってくる」と、人間が色別の小旗を持ってボートの代りに歩いてくる――最初は立ってやったが、スピードが早すぎるのでレースが早く進み過ぎてのみこめない。そこで中腰になり、それでも早いので今度は座ブトンの上に足をなげ出して坐り、お舟はギッチラコの遊びよろしくヨイショヨイショといざりのようにはい回りました。

山下　最初はみなマジメにやっていたが、何回かやるうちに疲れてきて事故が続出、審判側は苦労しました。ボートになった者は疲れてくると〝衝突だテンプク〟だとコロリとひっくり返って寝てしまう。

あれでやっとレースとはこんなものかと朧気ながら推察できてきたんですが…。

長田　しかしあれは太ももが痛かった。



紙谷　それも草創の苦しみのひとつですね。

長田　当時は１番白色、２番黒、３番赤ということすらもピンとこない。汽車に乗っても窓の外の看板を見て１番、３番といった工合に練習をして、色と番号を一致さすことの練習もしましたよ。

紙谷　それで思い出したのですが、審判の学課でエンピツを５～６本もってそれをチラッと見せて……。

原田　瞬間記憶力テストというのがありまして、色鉛筆をもってチラッと見せて色を当てさせる。つまり審判員に艇の色の見分けをつけさせる練習をしたわけです。

山下　青木さんは意地が悪いから、こっちは一生懸命色を覚えていると、〝いまのは何色が高く何色が低かったか〟などと、予期しない質問をなさる…(笑)。

長田　ぼくもやられた。(笑)

青木　そんな意地の悪いことをした覚えはないんですが…。

平野　実に〝科学的〟な試験でしたね(笑)。

原田　その当時でもちゃんと金を出せばいろいろな器械や器具が買えたのだが、なんといっても先立つものがないのだから、最も安い価格で手に入る器具を使って最大の効果をと、みんなでいろいろ知恵をしぼったものです。あのあとにもずい分いろいろな新式器具を発明しました。専売特許です。青木式が多かった。

講習会終了、すぐ初開催

平野　とにかくあの当時は初開催に間に合うように審判員を作ることが絶対的な条件でして、その結果は名誉審判の方には100番台の登録番号を与えた。

西島　私は実力であります。(笑)

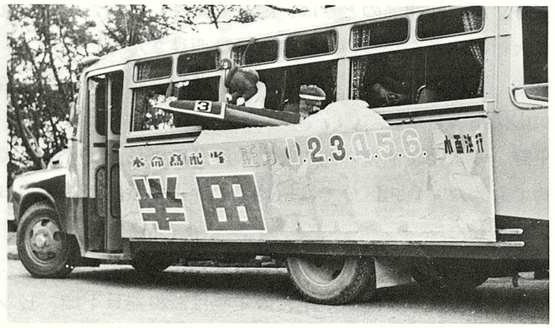
平野　いや恐れ入りました。年輩の方には100番台を与えたと思います。(笑)

西島　当時登録番号の一番若いのは。

菊地　１番が千葉さん、２番が原田さん、３番を平野さんじゃなかったかと思います。松岡さんは登録しませんでしたね。

松岡　いまになって後悔しております。

西島　教育はまったく厳格でした。



青木　それは良い意味ですか、悪い意味ですか。

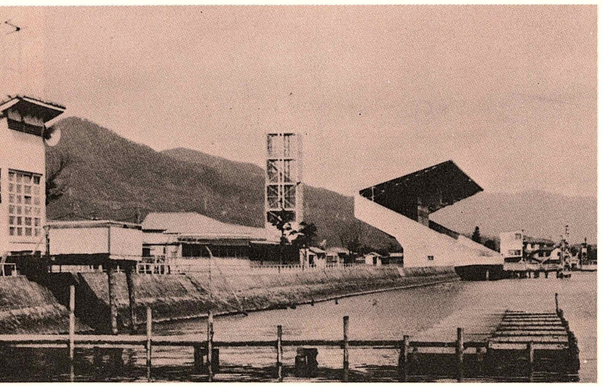
西島　よい意味です。まったく厳格でした。便所掃除、廊下の拭き掃除、言われなくてもみな雑巾がけしたし、真剣だった。

平野　連合会を辞めて埼玉に参りまして、実際に競走を運営し、選手管理を私自身やってみてよくよく考えてみるのですが、当時みなさんの起居動作はもちろん先輩後輩の立場については、今日例をみられない礼儀正しさをわきまえていられた。実に立派でしたね。

松岡　それですから私も、横車を押すことを止めて級長として自覚しました。

青木　神宮にも正式参拝しましたね。

松岡　そうでした、毎朝毎夕宮司と共に参拝しました。



平野　講習会を開くについては、ともかくすぐあとに津、琵琶湖の開催が迫っていたので、スケジュールはあらかじめ研究をし、さし当って開催に必要なことだけ網羅しておこうと一生懸命でした。

平野　当時フライングはどれくらいあったでしょうか。

青木　数え切れないほどありました。大村では20～30mフライングしたのがありました。これじゃというので予備ラインを50mに設けてなんとか食い止めようとした。津の頃は30mから10mくらいまで短縮されたのではないかとおぼえております。

松岡　出遅れが問題になったのはいつ頃ですか。

菊地　かなりあとです。

紙谷　第１回の近江神宮における競技委員長、審判長会議の時議題になって制裁的な申し合せが設けられるようになった。それまでは格別設けられていなかった。

西島　審判実技では反則の判定が難しいと思った。権利艇義務艇の判断、ここの畳の上でお互いがぶつかり合って、原田さんから、君は権利艇、あなたは義務艇だからということで教わったのだから。

青木　ところで石川さん、大西さんはその当時選手養成所で教育を受けていられたのですか。

大西　養成所ではボート、モーターのことについてはある程度教えられていたが、競走の仕組みなどは全然ですわ。

石川　とにかくわれわれはこの講習会に行ってこいといわれて、何を覚えて行けばよいのかわからなかった。

青木　津はどうでした。一番真剣であったと記憶しますが。

西島　そうです。必死でしたね。

内山　毎夜、午前２時頃まで電灯のついていたのは三重の部屋だけだった。

松岡　どうしてもレースを運営しなければならない。開催日が切迫していたので頭が痛かったわけだ。フライングスタートさえも理解できなかった。

西島　近江神宮では五里霧中でしたね。津に帰って、ボートを走らして現場指導をしてもらって始めて講義の内容が甦ってきたようなことでした。

平野　津の初開催のときは、競技委員長に西山さん、それに大村の西さんがついて、審判長は西島さんでしたね。

青木　大村より、西、猪川、山田、藤村、峰、松永の６名が応援指導した。

平野　いよいよ前検の前の晩、山岸舟艇班長を交え委任契約でもめた。負担区分では招待者の弁当の数に至るまで口論しました。

青木　津は大体最初からもめましたね。

平野　飯も食べず睡眠不足、競走場は器材器具不揃、ピッ

トは浮かずに沈んでいるし、村田、堀という人々とケンカごしで準備をしたものだった。市長の志田さんの宣伝だけは派手でした。お互いに徹夜の連続であったためか気が立って語気が荒くなってくるのです。実際、この通りやりなさいという参考書もないし、未経験者ばかりで開催に持っていったのですから冒険ですよ。

松岡　私は青木さんを見直したことがある。津で暴力団に立向って阻止した腕力といい、度胸といい大したものでした。助けに行こうと思ったが対岸からでは舟がないのでどうにもならない。舟に乗った頃には処置済みだというんでね。

青木　あれは競技部門で地元漁師の兄弟げんかで、大きな石を投げつけようとしていた。ボート、モーターは並べてあるし、こわされてはいかんと思って止めただけです。

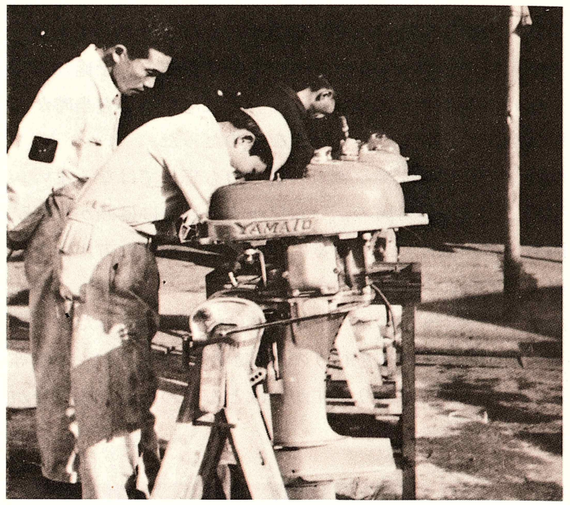
松岡　暴力団を空手で阻止し、運営に支障なきよう食い止めたと聞いております。

平野　近江神宮の講習会がいかに役立ったかどうかについて、みなさんいかがですか。

青木　一番真剣だったのは津、琵琶湖の連中でしたね。

西島　津では初開催当時、ファンに対する選手紹介をしていた。これはファンに対する礼儀として必要じゃないか、いまはどこもやっていないようだが。

中北　選手紹介はどこでも従来通りやっております。ただ津の初開催当時のように審判台の前にピットを設けて、展



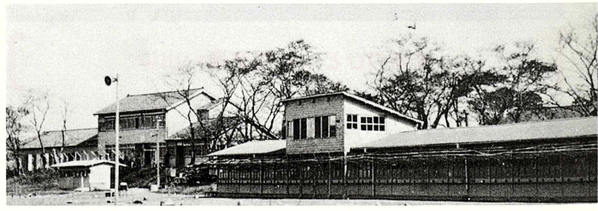
示前にひとりひとりを紹介するようなことはしていない。が、手を上げているのは昔も同じです。

平野　当時はモーターがいったん止まったら、なかなかかからなかった。そのため展示航走が長くなって投票券を売る時間が少なくなる、それでやめたと記憶しています。

松岡　選手の手の挙げ方に不正のサインがあるという噂が出たので、ずい分気を使ったものです。

松岡　当時「出遅れ」という言葉はなかった。

青木　フライングは困るが、当時のスタートに対する考え方としては、スタートは１時間や２時間遅れてもよかったのです。大村の初開催では、次のレースを行うまでにスタートすればよいということで議論したことがあります。



平野　当時、堤徳三さんが指導してくださったのですが、法制定当時は条文１項目作るにも基礎がなく、予備知識も少ないのでずい分苦労しました。それにつけても当時から笹川会長のご努力はたいへんなものだった。

松岡　会長を補佐する職員の蔭の力も忘れてはなるまい。

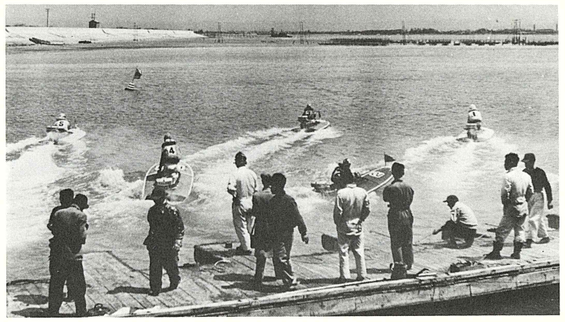
平野　連合会事務局のチームワークの良さには頭がさがる。

西島　ボートレースをやるについては、あなた方だけで独得なものをと考えたのですか。

原田　アマチュアのボートレースは外国にもあったが、舟券を発売してレースを行うのは日本が始めてです。施設等については特例はありますが、ほとんどわれわれ連合会が考え出したものです。

建物のひとつ一つが思い出に

青木　ところでここの講習会の最終日の試験に…があったというが、どうですか。それと講習会の管理中にエスケープした者があった。しかも土産だといって鮒寿司



を持ってきたりしましたね。

松岡　江戸前の寿司と間違えたのですが、あれは食べられたものでない。

青木　酒を飲んだ者はいなかったようですね。

平野　ここの講習会がともかくモーターボート関係者にとって第１回目だけに、その思い出もいまのみなさんには想像もつかないものがあり、それだけに意義あるものですね。

青木　その次が津で、放送員と審判員の講習会をやりました。

西島　松岡級長も操縦実技では桟橋に乗り上げて失敗しましたね。

松岡　モーターはエビンルードだった。操縦感覚が全然狂っていたので失敗した。

青木　こと操縦に関しては原田以外で経験者はオレ１人だということで張り切っていたが、ピットを離れるなり、くるくると同じところを回った。これは高等演技とばかり思ったが顔色を見ると蒼白だったので、オヤオヤさては例のはったりかと思いましたよ。

松岡　狭山池や淀川で乗っていたのですよ、しかし借りものは乗りにくい。狭山池で一番最初選手を養成したのですが、その時訓練生を集めて佐久間艇長の教訓をみんなに教えたものです。その時実は私もボートを見るのが始めて、このように操縦するのだと模範を示したのはよかったのですが、止めることを知らないものだから、走り始めてから

というものは止めるときのことを考えると気が狂いそうになり途方にくれた。燃料が早く無くなってくれ、とばかり念じていました。止めることも知らないんだから、はったりは〝東洋一〟を自負しています。

青木　乗艇は石川、大西というこの２人がさすが上手だったですね。

石川　われわれはこの講習会では乗るなと言われてきました。

西島　ここの講習会はいつからだったですか。

中北　たしか27年の６月22日より28日までだったと思います。津の開催まで１週間しかなかった。講習会で教わったことを１週間の間に準備してやったんです。

青木　最後に演芸会をやったと記憶しておりますが、私は残念ながら見なかった。しかし、松岡さんは顔に似合わず芸人だということでしたがどうですか。

松岡　やった、やった。

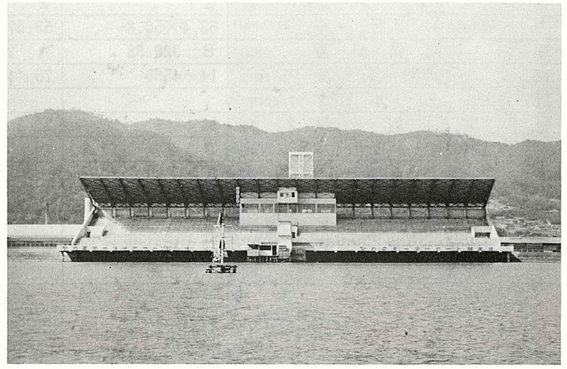
長田　松岡さんは浪曲をやった。福井の和田さんにモダンジイさんのニックネームがついたのもこの時で、尼崎の中野さんが剣舞をやりました。

西島　いま思うと、みんな真面目だったね。

原田　参加者が年輩の、しかも知名な方々が多かったにもかかわらず真剣で真面目だった。

西島　ここ近江神宮はなんといっても印象的ですね。

松岡　建物のひとつ一つに思い出が残っています。



平野　連合会主催のいろいろな講習会がありましたが、なんといってもこの時の講習会は意義深いものがあります。現在のように完成された運営だけを見ている人には通じないと思います。

青木　この講習会の精神はモーターボートの歴史の上に今日も残っております。

松岡　当時は経済的に乏しく、苦労の連続で苦しかった。想えば隔世の感がいたします。

平野　私の連合会総務部長時代の思い出としては、金の無かったことばかりで、印刷代もないため原田、青木、菊地と４人でガリを切り、封筒を書き切手貼りなどを夜遅くまでやったもんです。

大村では旅館に泊ったが、手持の金が少なくて宿泊料に困ったことがあります。おかみに呼ばれて請求されるのかと思ってドキリとしたこともあった。いま思い出すと冷汗三斗の冒険でした。

青木　本日はどうも、いろいろと想い出深いお話をたくさんいただきまして、誠にありがとうございました。

競走用モーターの諸元

項目 ＼ 機種	キヌタB20	マーキュリーKG4	エビンルート	ミクロ2-10	ヤマトI(27型)
初登録年月日	27.3.31	27.7.2	27.7.2	27.7.17	27.7.17
初登録競走場	大村	津	津	琵琶湖	尼崎
シリンダー数	2	2	2	2	2
内径×行程 mm	63.4×50.8	53.57×53.97	60.32×57.14	56.0×50.0	62.0×54.0
級別・総排気量 cc	B. 320.58	A. 243.99	B. 326.74	A. 246	B. 325.0
出力・回転数 PS/rpm	14／4500	75／4000		10／4500	14／4500
最大トルク kg/rpm					
機関重量 kg	34	25.8		58	32
潤滑方式（ガソリン：オイル）混合比	6：1			8：1	8：1
気化器型式・個数	K型1個			チロットソン型1個	個定ベンチュリー型1個
プロペラ・翼数	2			3	2
プロペラ・直径×ピッチ mm	212.5×330.0			196.8×203.2	170.0×216.0
ギヤ減速比	12：17			14：25	16：16
冷却方式	水冷圧送式			水冷、回転型ゴムポンプ	水冷、翼車偏心ポンプ

項目 ＼ 機種	マーキュリー(スーパー10)	ミクロ25馬力	クリスクラフト(コマンダー)	エビンルート(フリーツイン)	キヌタB25
初登録年月日	27.7.17	27.8.25	27.9.4	27.9.4	27.9.20
初登録競走場	琵琶湖	琵琶湖	大阪・尼崎	大阪・尼崎	若松
シリンダー数	2	2	2	2	2
内径×行程 mm	61.91×53.97	70.0×64.0	58.09×51.59	53.97×44.44	63.4×50.8
級別・総排気量 cc	B324.44	C. 492.0	B. 343.12	A. 203.18	B. 320.58
出力・回転数 PS/rpm	10／4000	22／4000	10／4000	7.5／4000～5000	17.5／5000
最大トルク kg/rpm					
機関重量 kg	28.5		32.6	22.2	32
潤滑方式（ガソリン：オイル）混合比					8：1
気化器型式・個数					V型1個
プロペラ・翼数		2	2	2	2
プロペラ・直径×ピッチ mm			222.25×228.6	20.32×20.32	212.5×305.0
ギヤ減速比			13：17	13：20	12：17
冷却方式			ローター		水冷圧送式

項目 ＼ 機種	マーキュリーKE4	ヤマト上下2気筒式	ヤマトY-I(28型)	ヤマトSI	ミクロ2-30
初登録年月日	27.10.5	27.10.29	28.3.7	28.4.13	28.6.1
初登録競走場	尼崎	丸亀	尼崎	三国	琵琶湖
シリンダー数	2	2	2	2	2
内径×行程 mm			62.0×54.0		70.0×64.0
級別・総排気量 cc	A196.0	B. 336.5	B. 325.0	B. 326.0	C. 492.0
出力・回転数 PS/rpm	7.5／4000		15／5000		25／4500
最大トルク kg/rpm					
機関重量 kg	24.4		32		95
潤滑方式（ガソリン：オイル）混合比		8：1	8：1		8：1
気化器型式・個数		個定ベンチュリー型1個	個定ベンチュリー型1個		チロットソン型1個
プロペラ・翼数	2	2	2	2	2
プロペラ・直径×ピッチ mm		170.0×216.0	170.0×216.0		
ギヤ減速比		16：16	16：16		
冷却方式		水冷翼車偏心ポンプ	水冷、翼車偏心ポンプ		水冷、回転型ゴムポンプ

〈注＝空欄は不明〉

競走用モーターの諸元

項目 ＼ 機種	キヌタB-30	キヌタC-30	ヤマト30(タイフーン)	キヌタB-35	サイクロンB57
初登録年月日	30.6.2	未登録	31.3.22	31.9.7	32.9.5
初登録競走場	尼崎	——	琵琶湖	福岡	多摩川
シリンダー数	2	2	2	2	2
内径×行程 mm	66.0×50.8	75.0×56.0	62.0×54.0	66.0×50.8	63.5×54.0
級別・総排気量 cc	B. 347.5	C. 494.55	B.	B. 347.5	B. 342.0
出力・回転数 PS/rpm	18／5200	25／6000	18.5／5500	20.5／6200	18／6500
最大トルク kg/rpm			2.6／4500		
機関重量 kg	38	45	32	38	30
潤滑方式（ガソリン：オイル）混合比	8：1	8：1	10：1～13：1	8：1	10：1
気化器型式・個数	V型1個	V型1個	37型 1個	V型 1個	自社式 1個
プロペラ・翼数	2	2	2	2	2
プロペラ・直径×ピッチ mm		R 215.9×368.3 H 228.6×381.0	170.0×141.0	172.5×269.9/355.6	R 176.0×280.0 H 176.0×305.0
ギヤ減速比	12：17	12：17	14：16	12：17	13：17
冷却方式	水冷圧送式	水冷圧送式	水冷、翼車偏心ポンプ	水冷圧送式	水冷遠心、ポンプ

項目 ＼ 機種	キヌタB-36	ヤマト60(タイフーン)	キヌタB-40	ヤマト65	ケーニヒFC
初登録年月日	35.6.10	36.5.1	37.6.7	40.4.22	40.11.30
初登録競走場	唐津	児島	唐津	児島	桐生
シリンダー数	2	2	2	2	2
内径×行程 mm	66.0×50.8	64.0×54.0	66.0×50.8	64.0×54.0	72.0×60.0
級別・総排気量 cc	B. 347.5	B. 348.0	B. 347.5	B. 348.0	C. 490.0
出力・回転数 PS/rpm		20／6000	20.5／6200	22／6300	55／8000
最大トルク kg/rpm		2.7／4800		2.8／5000	
機関重量 kg		36.5	38	37.5	34
潤滑方式（ガソリン：オイル）混合比		15～18：1	8：1	20：1	20：1
気化器型式・個数	V型1個	60型 1個	V型 1個	60型 1個	ケーニヒ 1個
プロペラ・翼数	2	2	2	2	2
プロペラ・直径×ピッチ mm		170.0×250.0	172.5×269.9/355.6	170.0×200.0	279.4×330.2
ギヤ減速比	12：17	14：16	12：17	14：16	15：16
冷却方式	水冷圧送式	水冷、翼車偏心ポンプ	水冷圧送式	水冷圧送式	水冷圧送式

項目 ＼ 機種	フジKB-I	ヤマト65-B	フジKB-2	フジKC-2	ヤマト68(消音型)
初登録年月日	42.2.17	42.6.3	43.10.7	44.10.28	44.3
初登録競走場	桐生	芦屋	宮島	桐生	本栖
シリンダー数	2	2	2	2	2
内径×行程 mm	60.5×60.0	64.0×54.0	60.5×60.0	65.0×60.0	64.0×54.0
級別・総排気量 cc	B. 345.0	B. 348.0	B. 345.0	C. 398.0	B. 348.0
出力・回転数 PS/rpm	23／6300	22／6300	23／6300	28／6000	22／6300
最大トルク kg/rpm	3.0／4000	2.8／5000	3.0／4000	4.0／4000	2.8／5000
機関重量 kg	35	37.5	37	38	38
潤滑方式（ガソリン：オイル）混合比	20：1	20：1	30：1	25：1	20：1
気化器型式・個数	KB-1 1個	60型 1個	KB-2 1個	KB-2 1個	60型 1個
プロペラ・翼数	2	2	2	2	2
プロペラ・直径×ピッチ mm	170.0×250.0	170.0×200.0	170.0×230.0	170.0×230.0	170.0×200.0
ギヤ減速比	14：16	14：16	14：16	14：16	14：16
冷却方式	水冷圧送式	水冷圧送式	水冷圧送式	水冷圧送式	水冷圧送式

〈注＝空欄は不明〉

競走用モーターの諸元

項目 ＼ 機種	フジKC-2S(消音型)	フジKC-2SN(消音型)	ヤマト70	ヤマト70S-I	フジKC-R
初登録年月日	44.12.10	45.10.25	45.12.21	46.3	46.3
初登録競走場	平和島	平和島	丸亀	本栖	本栖
シリンダー数	2	2	2	2	2
内径×行程 mm	65.0×60.0	65.0×60.0	61.8×58.0	61.8×58.0	65.0×60.0
級別・総排気量 cc	C. 398.0	C. 398.0	B. 348.0	B. 348.0	C. 398.0
出力・回転数 PS/rpm	28／6000	28／6000	28／6400	30／6400	33／7200
最大トルク kg/rpm	4.0／4000	4.0／4000	3.3／5500	3.3／5500	3.7／5500
機関重量 kg	39	40	40	40	38
潤滑方式（ガソリン：オイル）混合比	25：1	25：1	25：1	25：1	25：1
気化器型式・個数	KB-2・1個	KB-2・1個	70型・1個	70型・1個	KB-2・1個
プロペラ・翼数	2	2	2	2	2
プロペラ・直径×ピッチ mm	170.0×230.0	170.0×230.0	167.0×230.0	170.0×230.0	170.0×230.0
ギヤ減速比	14：16	14：16	14：16	14：16	14：16
冷却方式	水冷圧送式	水冷圧送式	水冷圧送式	水冷圧送式	水冷圧送式

項目 ＼ 機種	フジKB-3	フジKB-3SH(消音型)	ワールド80	ワールド80L-I	ワールド80S-I(消音型)
初登録年月日	46.4.8	46.12.7	49.1.28	49.1	49.9.3
初登録競走場	江戸川	平和島	唐津	本栖	平和島
シリンダー数	2	2	2	2	2
内径×行程 mm	60.5×60.0	60.5×60.0	60.0×58.0	63.5×58.0	63.5×58.0
級別・総排気量 cc	B. 345.0	B.	B. 327.8	C. 367.2	C. 367.2
出力・回転数 PS/rpm	30／7200	30／7200	30／7000	32／7000	30／7000
最大トルク kg/rpm	3.3／5500	3.3／5500	3.2／5500	3.5／5500	3.4／5500
機関重量 kg	39	39	40	40	43
潤滑方式（ガソリン：オイル）混合比	25：1	25：1	25：1	25：1	25：1
気化器型式・個数	KB-2・1個	KB-2 1個	BV30・1個	BV30・1個	BV30・1個
プロペラ・翼数	2	2	2	2	2
プロペラ・直径×ピッチ mm	170.0×230.0	170.0×230.0	167.0×238.0	167.0×238.0	167.0×238.0
ギヤ減速比	14：17	14：17	14：16	14：16	14：16
冷却方式	水冷圧送式	水冷圧送式	水冷圧送式	水冷圧送式	水冷圧送式

項目 ＼ 機種	ワールド80S-IB	ヤマトI01(減音型)	ヤマトI02	ヤマトI03	ヤマトI04
初登録年月日	51.9.13(減音型)	55.6.3	55.5.16	54.10	55.10.30
初登録競走場	平和島	徳山	大村	本栖	唐津
シリンダー数	2	2	2	2	2
内径×行程 mm	63.5×58.0	66.0×58.0	66.0×58.0	66.0×58.0	66.0×58.0
級別・総排気量 cc	C. 367.2	C. 396.9	C. 396.9	C. 396.9	C. 396.9
出力・回転数 PS/rpm	30／7000	30／6400	30／6400	33／6600	33／6600
最大トルク kg/rpm	3.4／5500	3.7／5500	3.7／5500	3.9／5800	3.9／5800
機関重量 kg	43	41.5	40.5	40.5	40.5
潤滑方式（ガソリン：オイル）混合比	25：1	30：1	30：1	30：1	30：1
気化器型式・個数	BV30・1個	BV36・1個	BV36・1個	BV36・1個	BV36・1個
プロペラ・翼数	2	2	2	2	2
プロペラ・直径×ピッチ mm	167×238	165.0×240.0	165.0×240.0	165.0×240.0	165.0×240.0
ギヤ減速比	14：16	14：15	14：15	14：15	14：15
冷却方式	水冷圧送式	水冷圧送式	水冷圧送式	水冷圧送式	水冷圧送式

モーターボート競走30年史／草創期篇

昭和56年11月26日発行

●発行　（社）全国モーターボート競走会連合会

印刷　（株）ワコー印刷

社団法人 全国モーターボート競走会連合会
東京都港区三田3丁目12番12号　☎03(454)5051